

根洗松がおしえてくれる

～根洗町ものがたり～



はじめに

2023(令和5)年、私たちの町は「根洗町」として誕生してから50年を迎えました。

この記念すべき節目に 町の歩みを語り合える「絵本」を制作することにしました。

内容は先人の方々が作成してくださった書籍「おらがまち根洗町(昭和58年発行)」を骨子に

町の方々からお聞きした 思い出話を参考に作成しました。

絵本の風景や登場人物などはイメージです。

史実に関して諸説あると思いますが、大まかな流れをつかみ 今後に活かしていただけましたら幸いです。

ものがたりの登場人物



根洗松の妖精 ネアーラ



根洗町に住む小学生

ねあちゃん

らいくん

まっちゃん

【ネアーラ】 お～い お～い 君たちは根洗町の子かい？

【ねあちゃん】 ねえ、声が聞こえない？

【ネアーラ】 ここだよ ここ、松の上を見てごらん

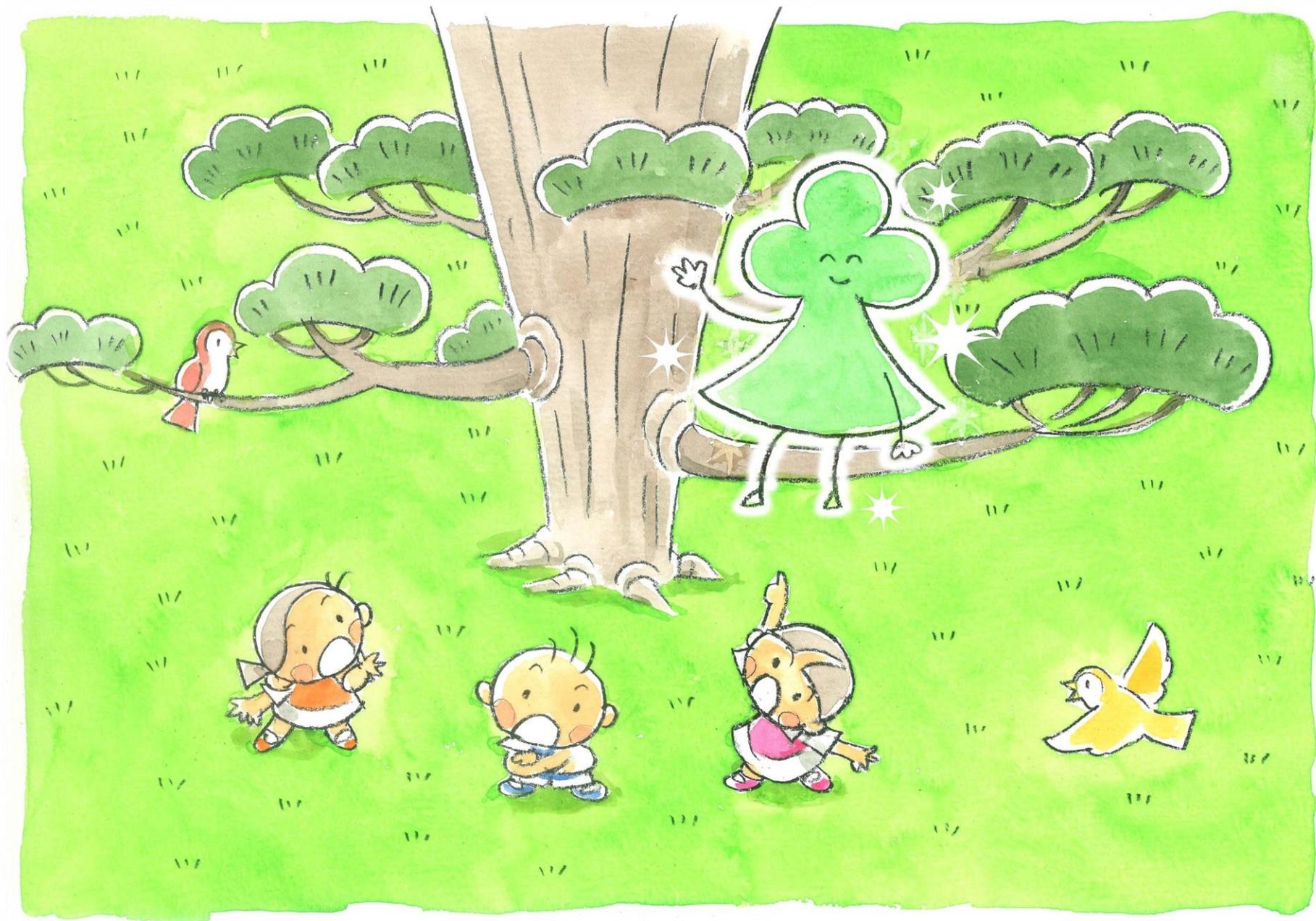
【らいくん】 あなたは だあれ？

【ネアーラ】 根洗松の妖精さ
この町が大好きで ずっと前から ここに住む人たちを 見つづけてきたんだ

【まっちゃん】 私たちの根洗町は どんなだったの？

【ねあちゃん】 知りたいな！ 教えて～

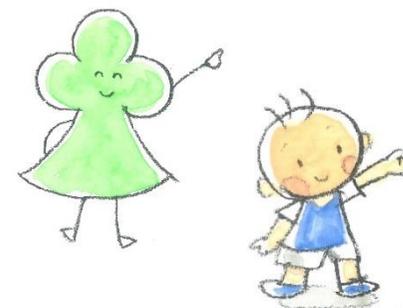
【ネアーラ】 よ～し じゃあ 根洗町ものがたり はじめるよ

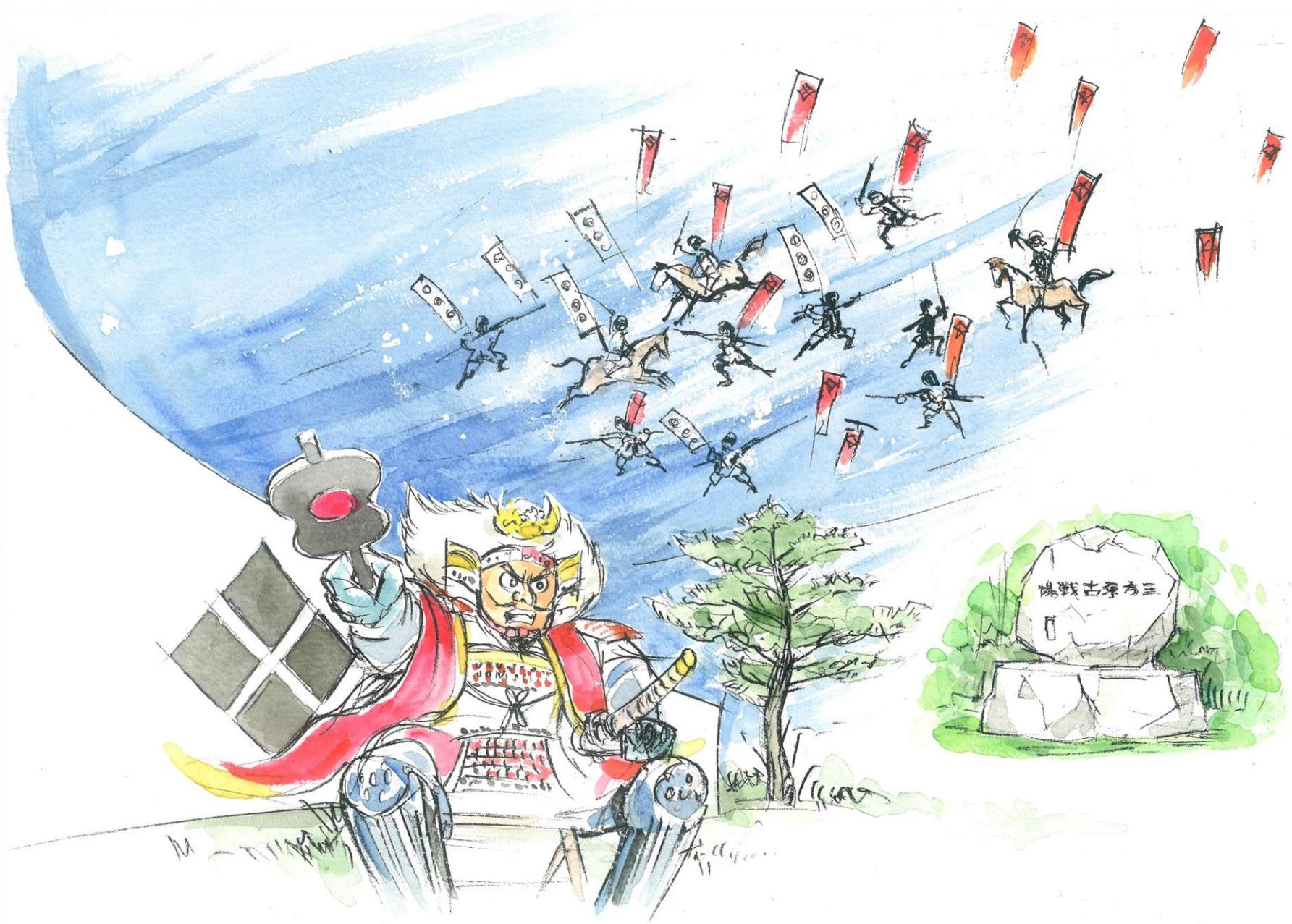


【ネアーラ】 いま 君たちが住んでいる根洗町は三方原の北側一部分にあたるよね。
三方原といえば 有名な歴史的な出来事があったことは知っているかい？

【らいくん】 学校の先生に教えてもらったよ。
三方ヶ原の戦いで 武田信玄がこの根洗松の近くに陣を張ったって。

【ネアーラ】 ほうだ祝田の坂の上にあるこの松に上がれば 周囲がよく見わたせるからね。
根洗松は歴史的にも 注目されている場所なんだ。
この松の西側は こんこんと泉が湧いていて おおや大谷に向かって流れていたよ





【ネアーラ】

江戸時代になると ちかくの村の人たちが 草刈り場や薪をとる場所として利用していたけれど
まだ人は住んでいなかったよ。

人々が暮らすために 開拓がはじまったのは 明治時代になってから。
江戸時代が終わり 仕事をなくした士族が 住む場所を求めて 移ってくるようになったんだ。

当時は雑草と小さな松が生えているだけ。
だから この根洗松が遠くからも大切な目印になっていたんだ。

鳳来寺へおまいりに行く人たちなど 通る人たちの 心のよりどころだったんだ。

【まっちゃん】

遠くの人たちからも 愛されていたのね～。





【ネアーラ】 明治時代に開拓しはじめた人々は本当によく働いたよ。
やせた赤土の土地を クワを手に、毎日汗水流して 厳しい作業の繰り返し。

【ねあちゃん】 大きな機械もなかったから 人の力だけで開拓したんでしょ。
スゴいわあ

【らいくん】 いまの^{てんりゅうく}天竜区付近に住んでいた人が ^{あばれてんりゅう ひがい} 暴れ天竜の被害から逃れてきた人もいたんだって。

【まっちゃん】 三河方面から移ってきた人たちもいたって うちのおじいちゃんが話してたわ。

【ネアーラ】 開拓が始まったといっても 三方原村は畑がすこしあるだけで 四方は松林に囲まれていたよ

にぎやかな村の人たちは 「言う事をきかないと 三方原へ（さびしいところへ）捨てにいくよ」と
子どもを叱る人も・・・。

【ねあちゃん】 まだまだ さびしい村だったのね～。





【ネアーラ】 大正2年の三方原村は5つに区分されていたよ
1区／後の初生町 2区／後の三方原南自治会 3区／後の三方原自治会
4区／後の百園自治会、百里園自治会、根洗町 5区／後の清水自治会

【ねあちゃん】 「私たちの根洗エリアは4区だったのね」

【ネアーラ】 当時の三方原の農家さんは 大部分がサツマイモと麦類、少しの茶畑で暮らしていたよ。
松林から 枝や落ち葉などを燃料として販売していた人もいたね。

【ネアーラ】 そうそう大正4年には^{けいべんてつどう}軽便鉄道が通るようになったよ。

浜松駅の近くから^{おくやまはんそうぼう}奥山半僧坊まで つないでいて、
この近くでは「^{みかたばらえき}三方原駅」や「^{みやこだぐちえき}都田口駅」があったよ。
鉄道の東側は大きな松林が続いていたんだ。

【らいくん】 鉄道を写真で見たことがあるよ～ 今も通っていたら良かったのになあ





【ネアーラ】 まだまだ道はせまくて、いまの国道 257 号の通りも じゃり道でね
通りの両側には土手と松林が続いていたよ。

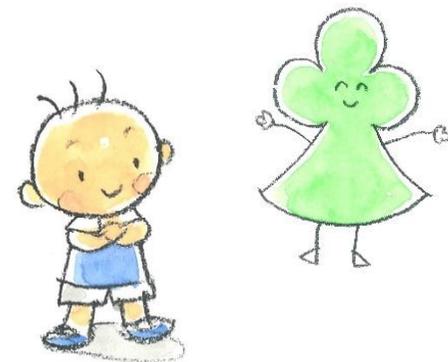
ねあらいばし にぐるま
根洗橋も 荷車がようやく通れるほどの 木の橋だったんだ。

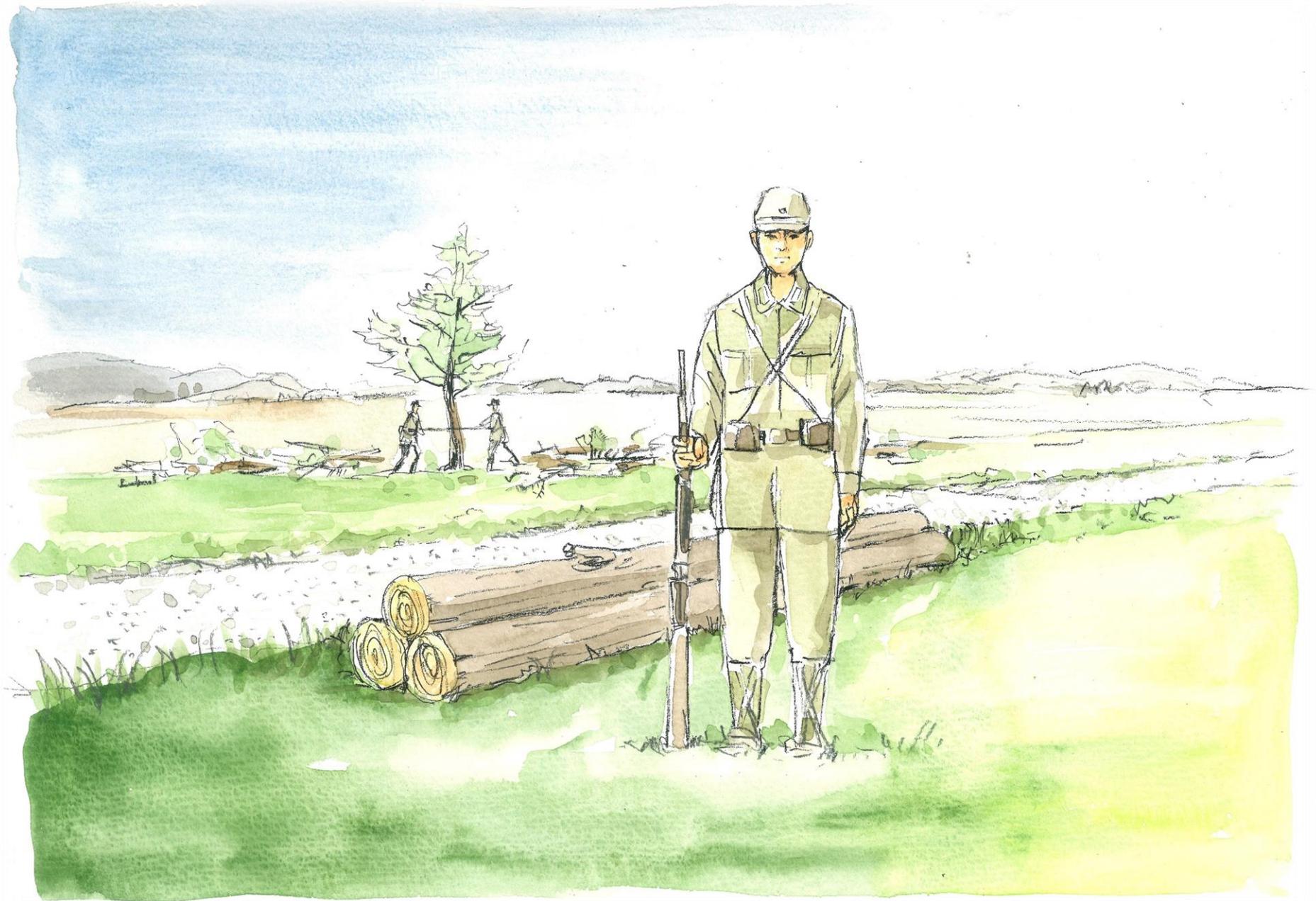
みんなが「これから開墾を進めるぞ！」と張り切っていたけれど
やがて、時代は 昭和の戦争へと すずんでしまうんだ。

【まっちゃん】 そのころ 根洗松の近くには 何本か松が茂っていたの？

【ネアーラ】 うん。
でも 燃料が必要だから 松の油とるために
仲間の松は どんどん切られてしまったんだよ。

【らいくん】 戦争って ほんとうに 悲しいことだね。





【ネアーラ】 昭和19年になると このあたり(三方原村の4区)は
「百園」と「百里園」と「根洗」の3つに分けられたんだ。

そして根洗エリアは 古い倉庫を移転して、
この場所にみんなが集まって 交流していたよ。

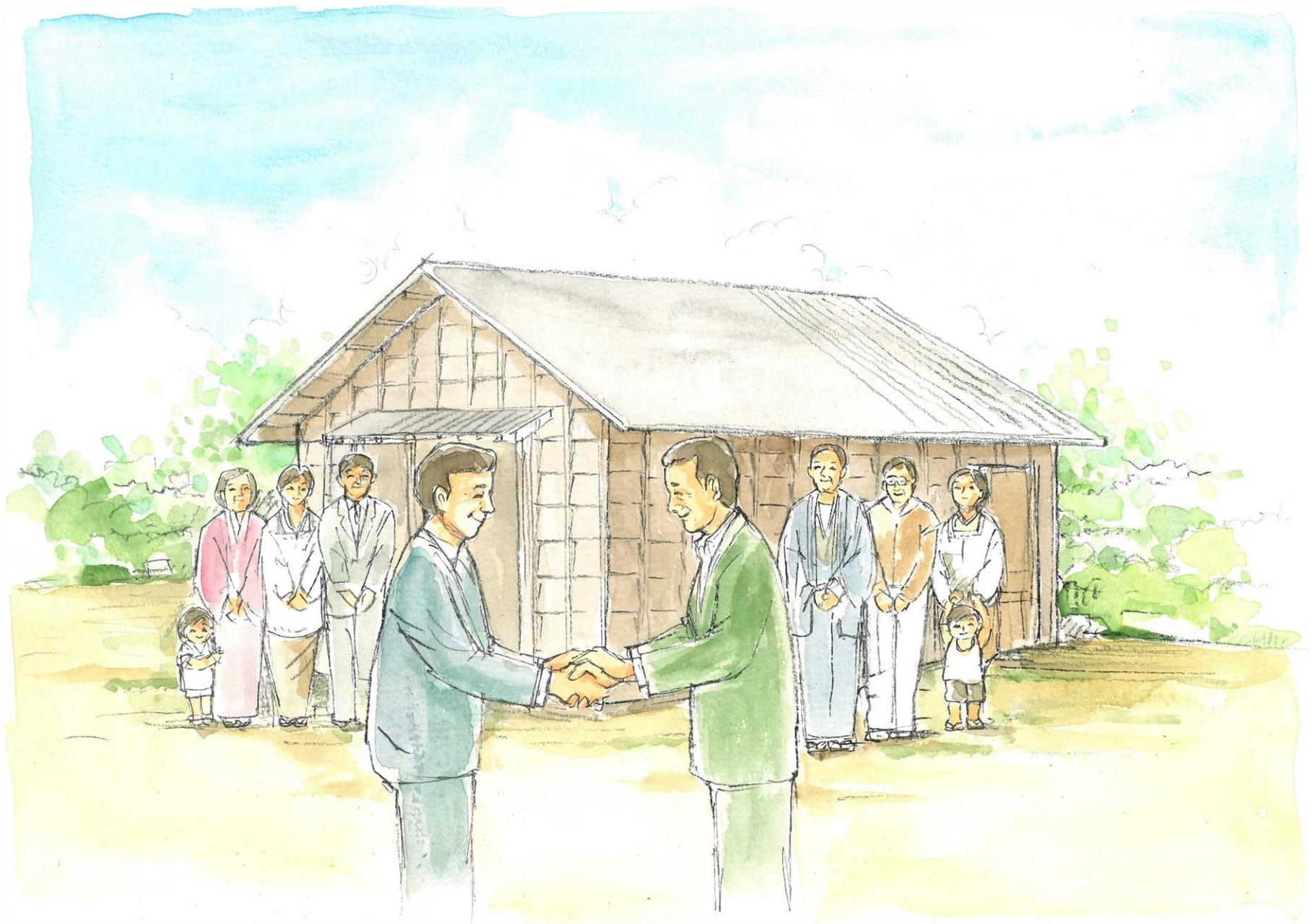
昭和20年に戦争が終わると、引揚者も戻りはじめた。
そしてまだ住む人のいなかった東根洗地域にも、
新しい仲間たちが 移り住むようになったんだ。



【ねあちゃん】 戦争が終わって、本当に新しい暮らしの始まりね。

【まっちゃん】 町のおじいさんや おばあさんたちに いろんな思い出を聞いてみたいね。





【ネアーラ】 麦ふみ、土入れ、春から夏には^{かいこ}蚕の^{くわ}桑つみと 大人たちは大忙し。
とれた大根を 竹ざおに ずら——と並べて 天日干しにするんだ。

【ねあちゃん】 今でも 見ることもあるわよ～

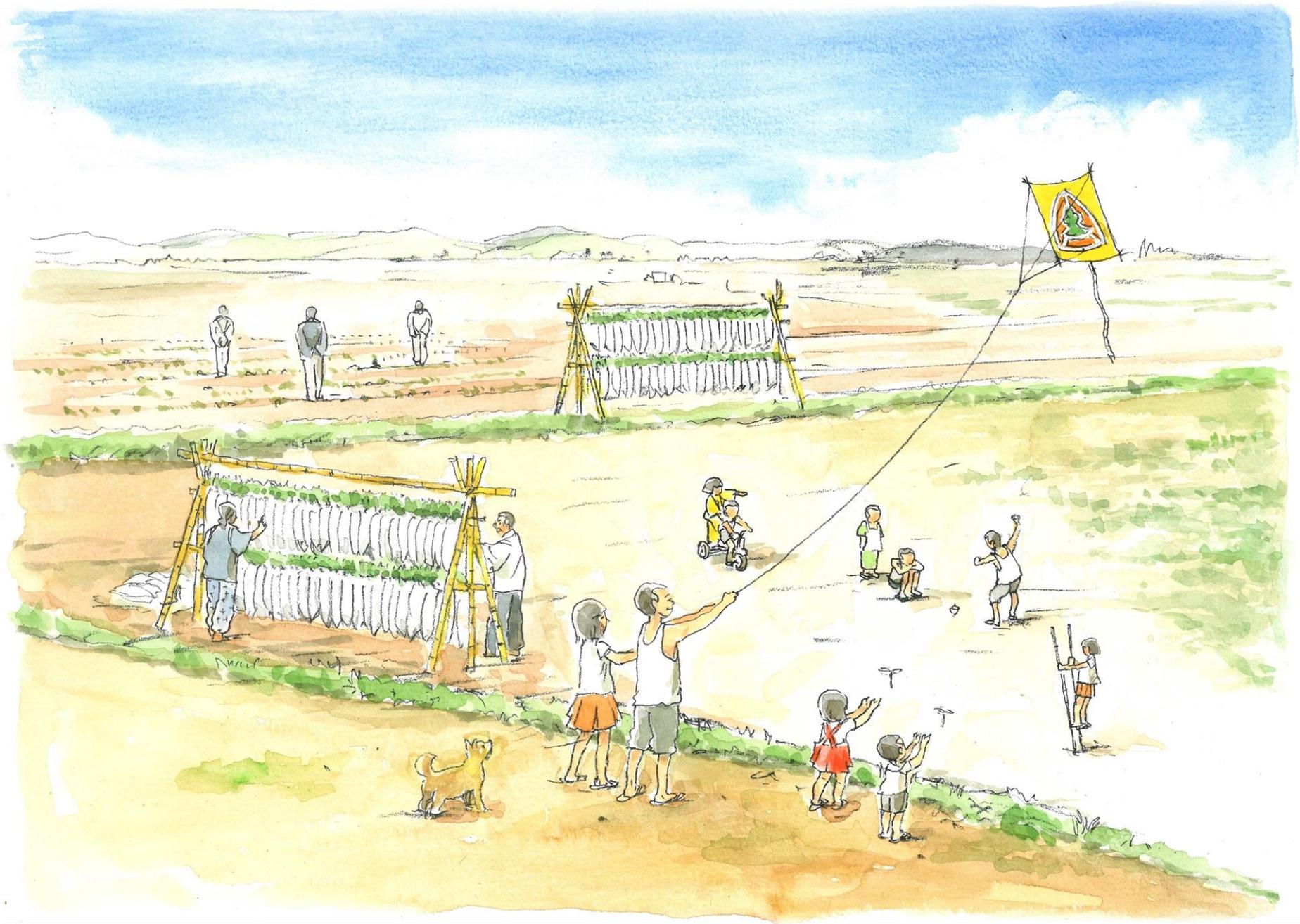
【ネアーラ】 子どもたちは コマ回し、凧揚げ、竹馬、竹とんぼ。 みんな手作りで遊んでいたんだ。

【らいくん】 ぼくたちと 全然ちがうなあ

【まっちゃん】 うちのおじいちゃんは 「子どものころ、拾ったお茶の実を 茶油をつくるところに持っていくと おこづかいをくれたよ」 って話していたわ

【ネアーラ】 サトウキビも育てて、加工していたしね。
地域の人たちは助け合い、支え合いながら、暮らしていたんだ。

そうそう ^{せいれいびょういん}聖隷病院の前身である保養農園がこの地域に移ってきたのは 昭和12年ころ。
創始者の^{はせがわたもつ}長谷川保先生は 地域の人が困ったことがあると すぐに駆けつけてくれた人で、
みんなが頼りにしていたんだ。



【ネアーラ】

人々の努力もあって 少しずつ 暮らしが豊かになってきた昭和 23 年、

サツマイモ作りのためにできた農協で でんぶんかこうじぎょう 澱粉加工事業が始まったんだ。

これは地域にとって 大きな出来事。

秋になると 収穫したサツマイモを 工場に運ぶ荷車が 長い列になっていたよ。

ところが、工場から出る汚れた水が 水路からあふれてしまって

墓地公園の近くにたまって、いやな臭いに 悩まされるようになってしまったんだ。

【ねあちゃん】

せっかく 新しい事業がスタートしたのに～

【ネアーラ】

でも ピンチはチャンス!!

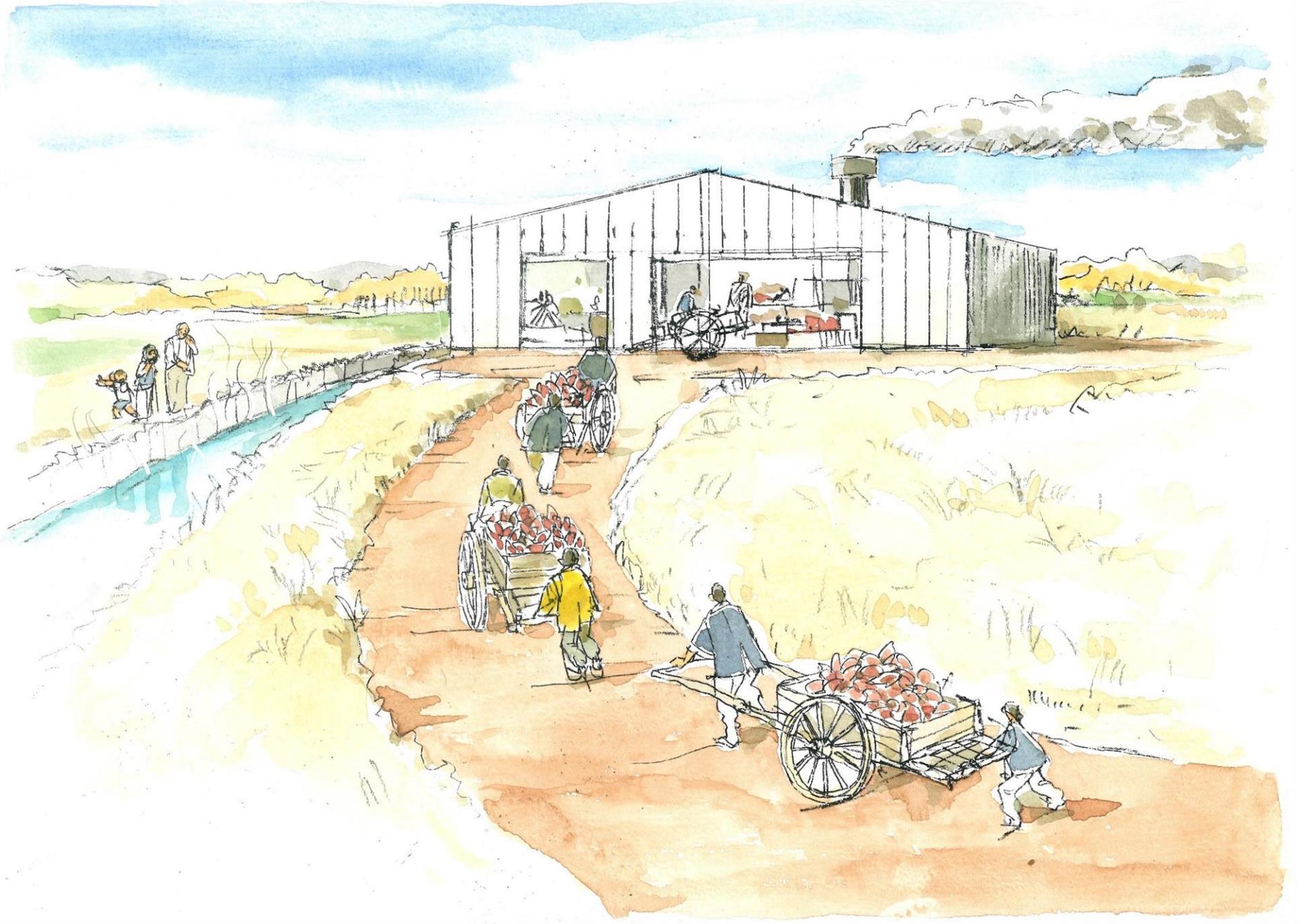
この問題を解決するために、「墓地を公園にしよう」と

未来の話に つながっていったんだ。

【らいくん】

さすが 地域の人たち 尊敬するなあ～。





【ネアーラ】 根洗を含めた三方原村が 浜松市に合併したのは昭和 29 年。
昭和 30 年には 県道が国道 257 号線に格上げされて 道幅も広くなったよ
でもそのために 松並木ともお別れすることになってしまったんだ。

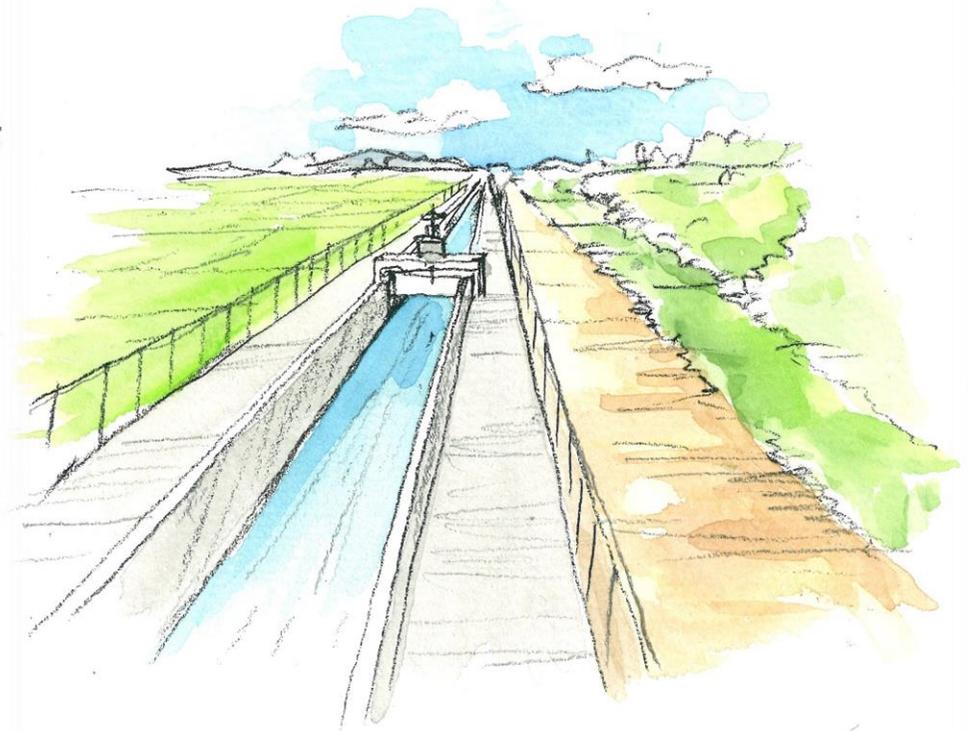
【まっちゃん】 「どんどん産業発展して
町の様子が みるみる変わっていった」って おばあちゃんも よく話してくれるわ

【ネアーラ】 昭和 36 年 当時の自治会長たるいこうぞう（樽井孝蔵さん）が 環境整備かんきょうせいびの要望書ようぼうしょを浜松市に提出。
翌年みかたばらから三方原用水事業みかたばらようすいじぎょうが はじまったんだ。

昭和 43 年には土地改良事業とちかいりょうじぎょうが始まり、3 号・4 号排水路はいすいろが整備された。
排水路はいすいろの整備、かん水事業どうろほそう、道路舗装など 着々と進められていったんだ。

【ねあちゃん】 今の町にも そのころの様子を 感じられるところがあるわ





【ねあちゃん】 道が広くなる前は、^{だいはちぐるま}大八車がやっと通れるくらい
せまくて 曲がりくねった道ばかりだったって おばあちゃんが話してたわ

【らいくん】 うちのおじいちゃんも 学生で自転車通学していたときから、
社会人になって車に乗るようになるまで、ずっと道路整備工事が続いていたって。

【ネアーラ】 道路工事中は道が赤土だから 雨が降るとドロドロになって、
車のはまり込むと動けないからね。

【らいくん】 だから、車を遠くにとめて
はだしで 家まで帰ってきたんだって～。

【まっちゃん】 大変だったのね～





【ネアーラ】 昭和 48 年 ついに独立した「根洗町」が誕生だ。

昭和 55 年に、君たちが持っている その旗のデザインが決定したんだ。
デザインを考えたのは当時 北星中学の生徒さんだった清水真理さん。

【らいくん】 旗については僕に説明させて!!

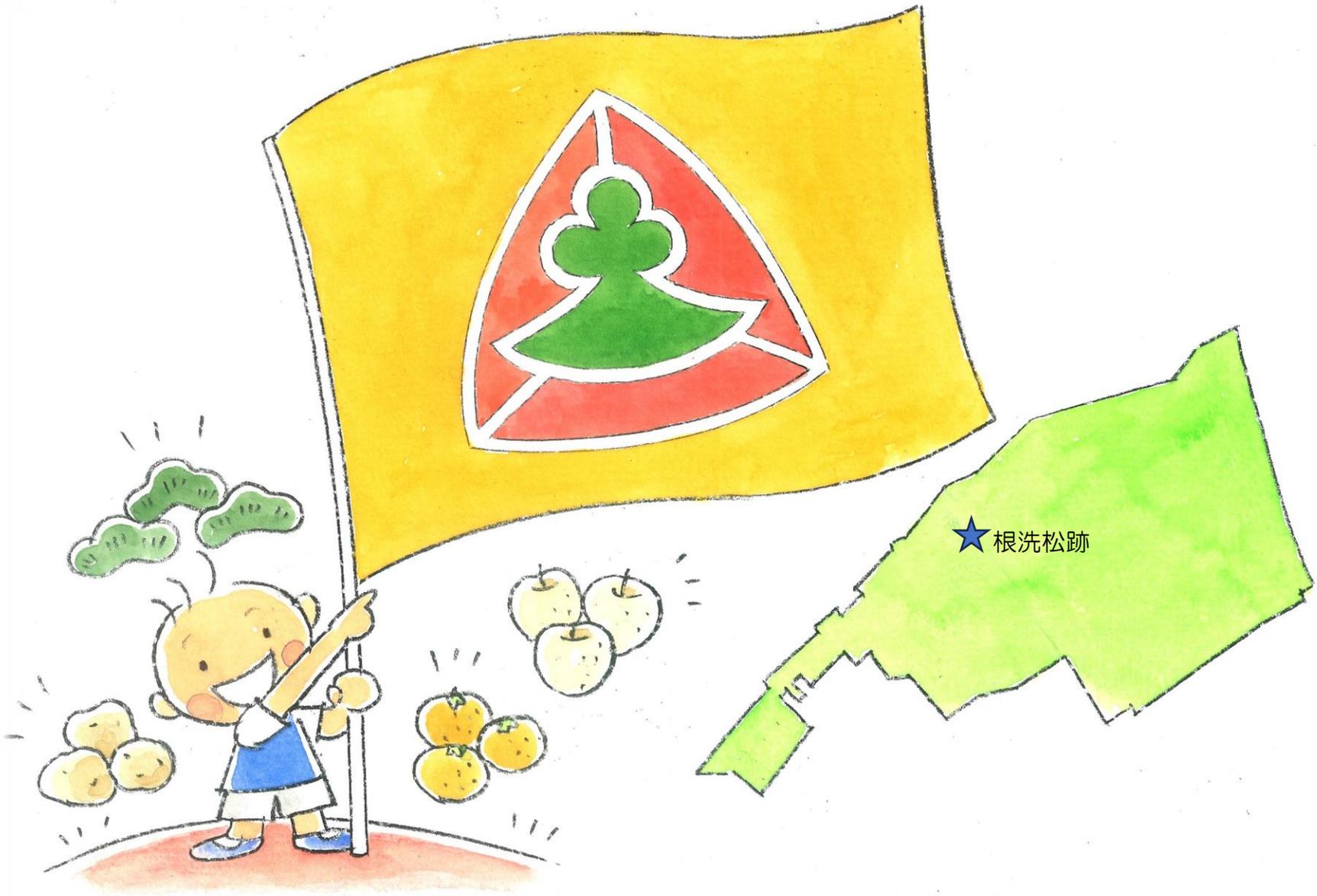
浜松の松と根洗松の緑色、赤土の大地のオレンジ色、

ばれいしょ
馬鈴薯、みかん、なしの黄色。

だんけつ きょうりよく ゆうわ
団結・協 力・融和を表現しているんだよね」

【まっちゃん】 ネアーラに 私たちの町の歴史を聞いて、ますますこの旗が誇らしく思えるわ





★ 根洗松跡

【ねあちゃん】 ところで、根洗松の^{はせんぎねんひ}保存記念碑はいつ建てられたの？

【ネアーラ】 昭和 50 年だよ。
でも昭和 51 年に 約 400 年の根洗松は枯れてしまったんだ。

きっと、地域の人たちが 笑顔で暮らしていけると安心して、
お役目を終えたのだと思うよ

【まっちゃん】 松が枯れてしまったのに ネアーラは大丈夫だったの？

【ネアーラ】 妖精は根洗松の^{たましい}魂 だから平気だよ
二代目のこの松を大事にしてくれれば、いつでも 君たちにあうことができるよ

【らいくん】 よかった～
また いろいろ ぼくたちに 地域のこと教えてね





【ねあちゃん】 長い間、ネアーラが見守ってくれるなかで、昔の人たちが 大切に地域を創ってきてくれたことが よくわかったわ。

【らいくん】 これから この根洗町を受け継いでいくのは ぼくたちだね。

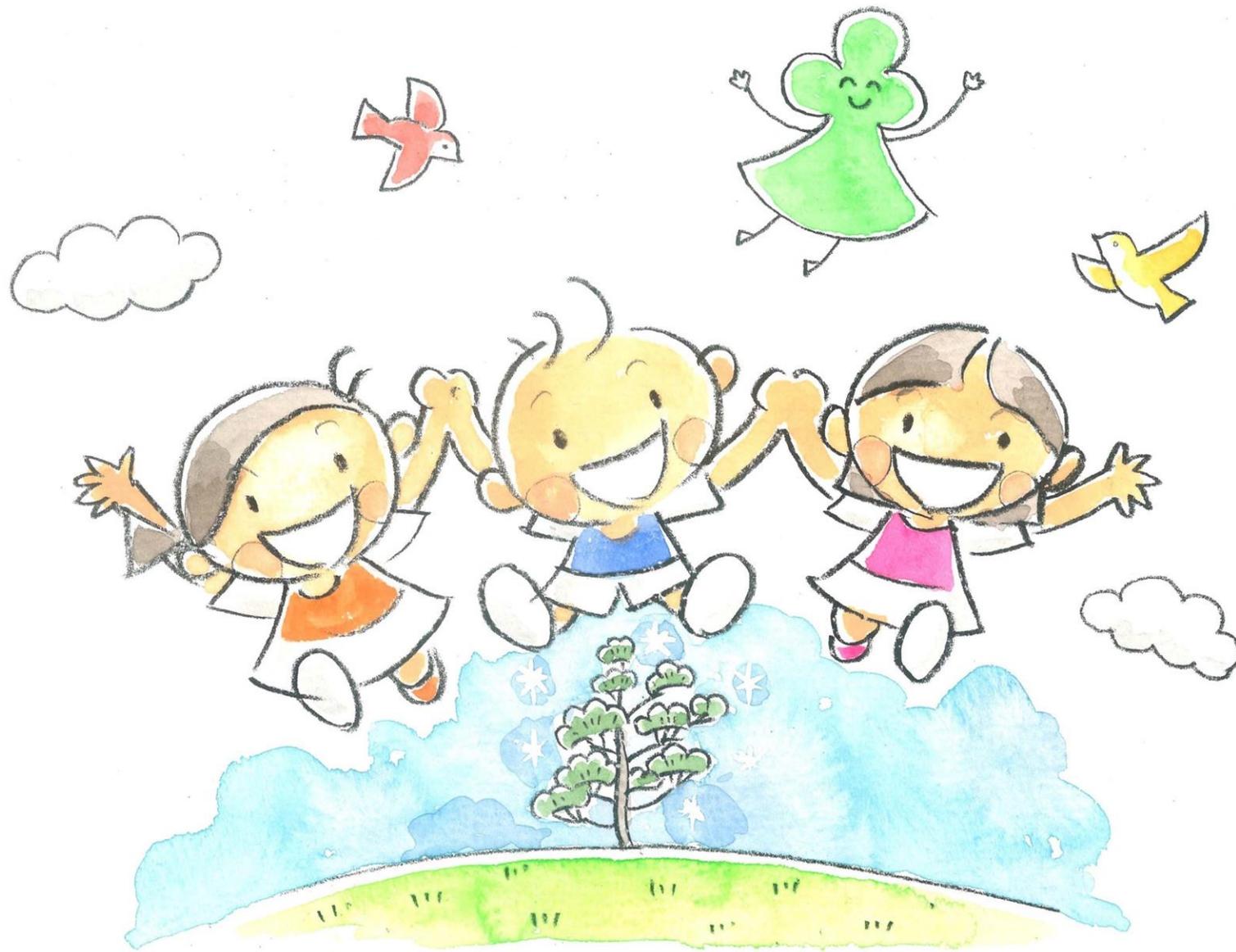
【まっちゃん】 そうね、これからも団結・協力・融和で 幸せに暮らしていきましょ！

【ネアーラ】 頼もしいな～
これからの根洗町が ますます 楽しみだよ。

【ねあちゃん】

【らいくん】 ネアーラ どうも ありがとう！

【まっちゃん】



根洗松がおしえてくれる

根洗町誕生 50 周年記念絵本

「根洗松がおしえてくれる～根洗町ものがたり～」

令和 4～5 年度 根洗町自治会役員

会長 木下清史

副会長 田中比左良

副会長 河合秀幸

会計 川田育子

令和 6 年 3 月発行

参考文献

根洗町公民館建設記念「おらがまち根洗町」(昭和 58 年 8 月発行 根洗町自治会編集)

わが町文化誌「三方原」赤土 台地 古戦場 (平成 6 年 2 月発行 浜松市三方原公民館編)

「三方原物語 三方原の成立ちと歩み」(平成 28 年発行 浜松北地域まちづくり協議会発行)



わがまち
根洗町

